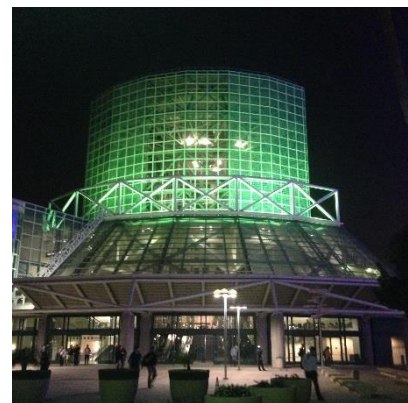


## Biophysical Society 60th Annual Meeting (2016) 参加報告書

広域科学専攻 博士課程1年 丸山洋平(矢島研究室)

「博士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受けて、2016年2月27日から3月2日にかけてロサンゼルスで行われる **Biophysical Society 60th Annual Meeting** に参加しました。この学術集会は生物、物理、そして計算科学分野を主として世界中から多くの研究者が参加し、最新の知見の発表や議論が行われます。

本学会では「**THE LEFT-HANDED SPIRALING MOVEMENT OF MITOTIC KINESIN-6**」という演題で学術研究についての発表を行いました。**Kinesin** とは微小管と呼ばれる細胞骨格に沿って移動していく分子モーターです。この **kinesin** は大きく 14 種類に分類され、それぞれ物質輸送、細胞分裂、微小管の脱重合などに役割を担っています。**Kinesin-6** はこの 14 種類に分類されるキネシンサブファミリーの中の1つで、その運動能を介して細胞分裂装置である中央紡錘体の形成に貢献しています。本研究ではこの **kinesin-6** の運動能に注目し、微小管上での運動を3次元方向・ナノメートルスケールで定量しました。本学会ではその結果についてポスター形式で報告しました。



写真：ロサンゼルスコンベンションセンター (学会会場)

この学会は生物「物理」学会なので、生命現象の物理的なメカニズムに着目した研究発表が主になされますが、領域内では世界最大規模の学会なだけあってその対象は多岐にわたります。単細胞生物や、上述の分子モーターを含むタンパク質の「動き」に注目した研究だけでなく、細胞死など医療の分野に近いテーマや、発生についてなど様々な生命分野の研究報告がなされていました。現代では通信技術の発達により、パソコン一つで様々な出版直後の研究内容に触れることができますが、情報量は膨大であり、自身の研究の関連分野を超えた内容についてのフォローはなかなか難しいと思います。そうした中で、この国際学会への参加は、自身の研究の関連分野の最新の知見だけでなく、様々な生命分野のホットな話題に一気に触れられる非常に貴重な機会であったと思います。この経験を自身の研究活動にいかして、より一層邁進していきたいと思っています。